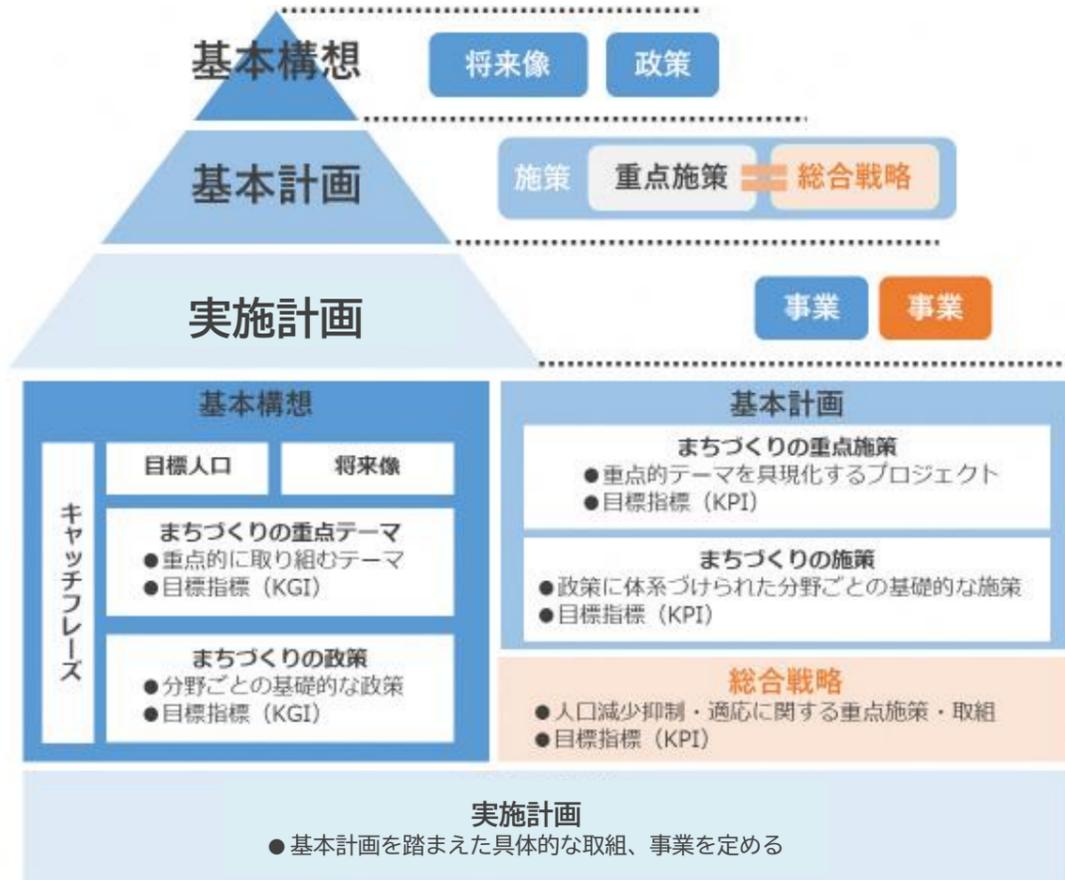
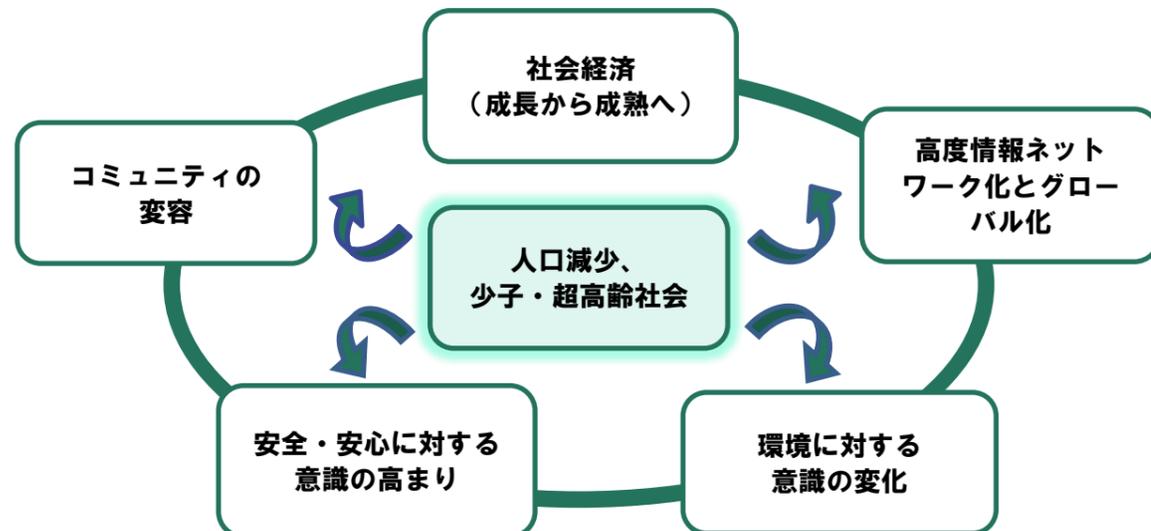


■ 広川町第4次総合計画(改訂版)の構成と位置付け(概念図)



■ 広川町を取り巻く時代の潮流 (トレンド)

広川町を取り巻く時代の潮流について、6つの枠組みで整理しています。これらの6つの枠組みは、それぞれが様々な局面において相互に影響しあいながら、社会状況の中で大きなトレンドを形成しています。また、これらは並列的な影響関係ではなく、多くの局面において“人口減少、少子・超高齢社会”という人口問題(人口の規模及び構造の変化)に係る時代の潮流の変化に大きな影響を受けながら、他の6つの枠組みが変容・変化していくケースが多いと考えられます。



[人口減少、少子・超高齢社会]

『人口減少、少子・超高齢社会』は、個人の価値観の変化やライフスタイルの多様化に伴う少産化・晩婚化・非婚化の拡大によるところが大きく、今後も長期的な社会保障制度の逼迫を始め、労働力の減少や消費市場の縮小などが想定されます。

- ◆少産化・晩婚化・非婚化 ⇒ 出生率の低下
- ◆人口構造の高齢化の進展 (団塊世代の後期高齢化)
- ◆人口減少社会
- ◆社会保障制度の逼迫 (医療・介護・福祉コストの増大)
- ◆労働力の減少、消費市場の縮小

[社会経済(成長から成熟へ)]

『社会経済』は、工業生産品の消費マーケットとしての人口の増加を前提とした大量消費社会から、人口減少(特に消費購買が期待される生産年齢人口の減少)を背景に、“量から質へ”の転換を余儀なくされた経済構造そのものの変化として捉えることができます。働き方の多様化のひとつの姿としての非正規雇用の拡大は、人生設計の不透明性を増し、結婚できない若者の増加の他、貧困問題を含めた経済的格差の拡大として問題となっています。

- ◆アジア諸国の経済成長、日本国内における外国人労働者の増加
- ◆国際観光需要(インバウンド等)とコト消費の拡大
- ◆アベノミクス(金融緩和政策)
- ◆働き方改革
- ◆社会・経済に対する不安感の拡大、非正規雇用の拡大
- ◆生産拠点の国内回帰
- ◆地産地消・地産地商
- ◆6次産業化

[高度情報ネットワーク化とグローバル化]

『高度情報ネットワーク化とグローバル化』は、人口構造・規模の変化に端を発する上記の社会経済の変容の中で、重厚長大型の産業・製品から軽薄短小型へとシフトした結果として、情報通信技術の進展を経ながら個人レベルでの情報端末(モバイル)の所有・利用が普及してきたものとして捉えることができます。こうした技術の進歩は地域や国の枠組みを超えて、だれもが容易につながることができるといった新たな関係性や、経済活動の可能性を広げた一方で、情報の管理やセキュリティといった問題もはらんでいます。

- ◆society5.0
- ◆人工知能
- ◆自治体クラウド
- ◆情報通信技術(ICT)の飛躍的進歩と普及
- ◆市場経済の地球規模化(グローバル化)
- ◆情報関連産業の成長
- ◆情報セキュリティ、個人情報問題
- ◆バーチャルコミュニケーションの普及
- ◆情報及び情報ツールの・モバイル化・個人化

[環境に対する意識の変化]

『環境に対する意識の変化』は、地球規模での人口増加(特に発展途上国・新興国)を背景に、食糧(生産能力)やエネルギー(石油などの化石燃料)などの限りある地球資源の不足・枯渇を危惧する意識の高まりとして捉えることができます。併せて、『高度情報ネットワーク化とグローバル化』の進展によって、環境問題を地球規模で考えることが一般化されつつあり、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)においてもクリーンなエネルギーの活用、気候変動への対策や、海・森の豊かさを守るための指標等が設定され、各国・各地域での推進が求められています。

- ◆地球温暖化を含め、地球レベルでの環境破壊
- ◆国の地球温暖化対策計画に基づく2030年中期削減目標の達成に向けた取組
- ◆循環型社会における循環の質に着目したリデュース・リユースの取組強化
- ◆生物多様性の減少
- ◆環境汚染(廃棄物の増加、化学物質等の蓄積による汚染)
- ◆水・食糧・エネルギー・資源等の不足(世界人口の増加、資源の偏在)
- ◆再生可能エネルギー
- ◆原子力発電に対する意識の変化
- ◆エコパートナーシップ(地域が一体となり地球温暖化防止、環境保全に取り組む)

[安全・安心に対する意識の高まり]

『安全・安心に対する意識の高まり』は、直接的には人口減少等の影響を受けにくい枠組みですが、都市部では大規模災害発生後の帰宅難民対策が大きな課題となり、また、過疎化が進む山間部などでは地域における共助体制の低下等が問題となるなど、人口が集中する地域と過疎化する地域においては関心の持ち方や課題等が、異なる様相を呈しています。とりわけ、近年多発・局地化する自然災害や、『高度情報ネットワーク化とグローバル化』に伴う犯罪の高度化などに対して、地域の状況に応じた対応策が求められます。

- ◆振り込め詐欺など、高齢者を狙った犯罪の多様化
- ◆津波や原子力災害、豪雨災害の恐ろしさの体験
- ◆災害に対する危機意識の変化・高まり
- ◆減災への取組
- ◆食に対する安全・安心意識の高まり
- ◆農産品等の産地・生産者に対する関心の高まり(トレーサビリティ)

[コミュニティの変容]

『コミュニティの変容』は、都市化に伴う価値観やライフスタイルの多様化などにより、核家族などの小家族へと変化してきたことの結果として、地域とのつながりが希薄化したことで、これまでのような地域社会における地縁に基づく地域コミュニティ(町会・自治会など)への参加者が減少しています。一方で、『高度情報ネットワーク化とグローバル化』の中、地縁にとられない新たなつながりによるコミュニティ(ソーシャル・ネットワークなど)が多く生まれています。

- ◆核家族化(大家族から小家族へ)
- ◆住む地域への愛着・関係性の減少、地域住民とのふれあい・関わりの希薄化
- ◆地域らしさ(アイデンティティ)の喪失
- ◆隣近所に対する無関心(小家族の孤立化、孤立死の増加、犯罪の増加)
- ◆地域コミュニティの機能低下、崩壊(地域における支え合い等の地域力の低下)
- ◆自助・互助・共助・公助の展開
- ◆地縁にとられないコミュニティの増加・拡大(ICT等の活用、NPO活動)
- ◆地域コミュニティの役割・重要性の再認識
- ◆地域共生社会の実現